

# 活 動 報 告

## 共同研究奨励金グループ活動報告

『戦後、とくにGHQ占領期における在日華僑、在日朝鮮人の生活空間を明らかにする—横浜市・神奈川県内の動きを中心に』

外国語学部 大里浩秋

本研究の2年目の研究は、1年目にスタートが遅れて研究会を十分に開けなかった反省を踏まえて、関連するテーマで可能な限り研究会を持って、お互いの問題関心を刺激しあって実のある共同研究に作り上げていくことを目指した。その結果、大きく2つのテーマに分け、1つは、1年目に続いてプランゲ文庫から関連する資料を探し、かつそれ以外の資料も探しつつ、戦後の在日華僑、在日朝鮮人についての各自の研究成果を報告する研究会、もう1つは、戦後の中国人日本留学の歴史を中心にして日中双方の留学の歴史をプランゲ文庫その他から調べてその成果を報告する研究会を並列して開くことにした。研究会への参加は、両方に参加する人あり、片方に参加する人ありで、いずれの研究会にも院生や外部の方の参加を呼びかけながら運営した。以下に2つの研究会（便宜上、「プランゲ文庫と東アジア」班と「留学生の歴史」班と呼ぶ）を開いた日時と報告者の名前と報告テーマを記す。

### 「プランゲ文庫と東アジア」班

- 1, 5月19日17時から、孫安石氏「上海発行の亜洲世紀について」
- 2, 6月21日16時半から、中村元哉氏（津田塾大学）「戦後中国のメディア空間の紹介」  
村上衛氏（横浜国大）「グローバル・ヒストリーの中の中国経済史」
- 3, 10月20日16時から、尹健次氏「解放空間、南朝鮮と在日朝鮮人」
- 4, 12月15日16時から、菅沼若菜氏（中国言語文化修士課程）「戦後の華僑社会」  
大里浩秋氏「プランゲ文庫中の華僑資料」

### 「留学生の歴史」班

- 1, 6月26日16時から、王雪萍氏（東京大学）  
「戦後留日学生・華僑の帰国と新中国の外交」
- 2, 10月1日18時から、周一川氏（日本大学）  
「『満洲国』における女性の日本留学—インタビュー調査の報告」
- 3, 12月4日15時から、見城悌治氏（千葉大学）  
「1920～30年代における中国留学生と日本見学旅行—彼らは何を見たか、彼らに何をみせようとしたか」
- 4, 2月5日15時から、田遠氏（中国言語文化修士課程）「戦後直後の中国人留学生の生活空間」

今後、「プランゲ文庫と東アジア」班はワークショップを2月28日に行い、3月初には数人でアメリカに出かけ、プランゲ文庫と米国国立公文書館の資料を参観する予定であり、「留学生の歴史」班は3月19日に研究会を開く予定である。

## 共同研究奨励金グループ活動報告

### 「植民地近代性の国際比較——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験——」

人間科学部 永野善子

#### 1. 研究の目的

本研究は、「植民地近代性」が現れている領域として、「帝国」、「植民地主義」、「ナショナリズム」、「国民国家」、「脱植民地化」、「エスニシティ」の6つの課題を取り上げ、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの諸地域を対象として、以下の6つを課題として共同研究を行う。そのうえで、「植民地近代性」の概念の新たな構築をめざすものである。

#### 2. 研究グループ・メンバー構成：

永野善子（人間科学部）、小馬 徹（人間科学部）、後藤政子（外国語学部）、尹 健次（外国語学部）、村井寛志（外国語学部）、泉水英計（経営学部）、高城 玲（経営学部）、藤村是清（本学非常勤講師）、菅原 昭（本学非常勤講師）、岡田泰平（成蹊大学）、中林伸浩（松蔭横浜大学）

#### 3. 本年度の研究活動について

本共同研究の参加メンバーは各自のテーマにしたがって、海外・国内における資料・聴き取り調査を実施するかたわら、本共同研究メンバーによる2回の定例研究会と海外から講師を招聘した特別講演会を開催した。さらに、2011年3月には箱根におけるセミナー合宿を予定している。

##### 〈第1回研究会〉

日時：6月5日（土）午後4～6時

場所：本学17号館401号室

講師：菅原 昭氏（神奈川大学非常勤講師）

論題：「タイ近代と小農的世界：小農的論理の相対的自立性について」

##### 〈特別講演会〉

日時：11月13日（土）：午前10時～12時

場所：つくば国際会議場（第2回国際フィリピン研究会議）

講師：ベリンダ・A・アキノ氏（ハワイ大学名誉教授）

論題：「グローバル化する世界における新しいフィリピン政治像を求めて」

（使用言語：英語）

##### 〈第2回研究会〉

日時：12月1日（水）：午後4～6時

場所：本学17号館401号室

講師：藤村是清氏（本学非常勤講師）

論題：「環太平洋 移動の海の形象：ディアスポラ論と植民地近代性」

##### 〈箱根セミナー合宿予定〉

日程：2011年3月22日（火）～23日（水）

（1泊2日）

場所：神奈川大学箱根保養所

プログラム：

第1日午後：尹健次氏報告

（午後3時～5時）

（本学教授：日韓思想史）

第1日夜：懇親会（午後7時～9時）

第2日午前：レイナルド・イレート氏報告（午前9時半～11時半）

（国立シンガポール大学教授：東南アジア研究）

第2日午後：中林伸浩氏報告

（午後1時～3時）

（松蔭横浜大学教授：人類学・アフリカ研究）

#### 4. 2011年シンガポール・ワークショップにむけての準備

本共同研究グループは最終年次の2011年度11月に国立シンガポール大学人文社会科学部の協力をえて、同大学で公開ワークショップを開催し、その成果を英語で発表する準備を行っている。本研究グループから、永野善子、小馬徹、尹健次、村井寛志、高城玲、岡田泰平の6名が参加を予定している。

(注記：本報告は、共同研究グループ「植民地近代性の国際比較」の活動報告をかねる)。

## 共同研究グループ活動報告（2010年度）

### 日中関係史

10年度の活動は、関連する内容のうち、プランゲ文庫と東アジア、中国人日本留学史については共同研究奨励助成の方で、中国における日本租界については非文字史料研究センターの方で研究会かシンポジウムを開いたため、独自に開いたのは下記の講演会のみであった。

7月14日 池上正治氏（作家・翻訳家）「徐福伝説—その実像に迫る」

いつも反省ばかりだが、個別テーマによる研究とは別に多彩な内容による面白い企画を次年度は開拓したいと思う。

（大里浩秋）

### 文化のかたち

#### 活動内容：

当共同研究グループは、2011年度の叢書（課題名「グローバル化の中の日本文化」）刊行を目指して、メンバー各自が自身の研究テーマで調査・考察活動を進めている。

昨年9月と今年1月にニューズレターを配布した。

2011年1月7日（金）に研究会を開催し、叢書のタイトルと2名の編集委員を決定し、会員相互の結束を確かめ合いながら、来年度の叢書に各自の具体的な成果が反映されるよう執筆活動を進めることなどを確認した。

（水野晴光）

### 各国地方史の比較的研究

1. 研究テーマ：世界史を、国家、民族、文明というレベルで考察するのではなく、地方史のレベルから見直すこと。
2. 代表：村井寛志

### 3. 活動内容：

今年度は研究会を開くことができなかった。次年度以降の方針も含め、検討したい。

（村井寛志）

### 東アジア比較文化研究会

#### 1. 講演会

10月27日（水） 17号館 216教室 小峯和明（立教大学教授）

演題「琉球と異文化交流—薩摩の琉球侵略前後をめぐる」

#### 2. シンポジウムの開催計画

台湾大学との学術交流協定が締結されたのを機に、次年度には国際シンポジウムの開催を検討中である。

3. 代表世話人の交替で、なにかと慣れないことが多く、本年度の活動は、講演会を後期一回開催するにとどまり、低調に終わった。講演内容については、本研究会のテーマを明確化するため、沖縄における異文化交流に焦点化した。次年度に開催を予定している国際シンポジウムの立案検討を通して共同研究のメンバー相互の意思疎通を積極的に図って行きたいと考えている。

（深澤 徹）

### 色彩と文化

今年度、共同研究奨励助成金グループ「世界の色の記号に関する実証的研究」の3年間の活動成果を論文集にまとめ人文学研究所から「叢書」として出版する事になった。

今年度は叢書の発行に専念し、それ以外の活動は休止している。

（三星宗雄）

### 言語変異研究

1. 研究内容：言語と社会の関係に関する総合的

な研究, 今年度は主に色彩語と社会の關係に関する調査研究を行った。

2. 学会発表:

テーマ: 現代中国語の色彩語とメタファー—  
下位概念化の認知意味論的考察

日時と場所: 2010年11月14日 日本中国語  
学会第60回大会 神奈川大学)

3. 2011年度は言語政策について調査する予定である。

(彭 国躍)

### プランゲ文庫研究会

本学図書館が所蔵するプランゲ文庫の新聞・雑誌コレクションの共同研究を目指す本研究会は、2009年に学内奨励研究に採択され、「プランゲ文庫とアジア」に関連する研究会を積み重ねている。2010年には合計5回の研究会を開き、2011年3月にはアメリカのワシントン・NARA(国立公文書館)の資料調査を行う予定である。研究会の例会は、下記の通り開催された。

#### 第1回(2010年5月19日)

報告:

1. 『亜洲世紀』と中国の日本研究(孫安石・神奈川大学)
2. 今後の日程について

#### 第2回(2010年6月21日)

報告:

1. 戦後中国のメディア空間の紹介(中村元哉・津田塾大学)
2. グローバルヒストリーの中の中国経済史(村上衛・横浜国立大学)

#### 第3回(2010年10月20日)

報告:

1. 解放空間, 南朝鮮と在日朝鮮人(尹健次・神奈川大学)
2. 今後の日程について

#### 第4回(2010年12月4日)

報告:

1. 「1920—1930年代における中国留学生の日本見学旅行」  
—彼らは何をみたか, また彼らに何をみせようとしたか(見城悌治, 千葉大学)
2. 今後の日程について

#### 第5回(2010年12月15日)

報告:

1. 「戦後の華僑社会」(菅沼若菜・神奈川大学大学院)
2. 「プランゲ文庫中の華僑資料」(大里浩秋・神奈川大学)
3. 今後の日程と2011年2月の合宿(予定)  
(孫安石)

### 表象文化研究会

2010年度は、3人の新会員を迎え、次の叢書発行や共同プロジェクトに向けての統一テーマを模索するべく、下記のとおり研究会を開催した。

#### 第1回研究会

日時 7月28日(水) 16:30~18:30

場所 17-216 人文学研究所

発表者 ① 村井まや子(神奈川大学外国語学部  
准教授)

「物語の手触り—鴻池朋子による『赤ずきん』の視覚的表象」

② 鈴木陽一(神奈川大学外国語学部教授)

「中国の18世紀におけるリアリズム—図像の読解の試み」

#### 第2回研究会

日時 9月29日(水) 16:00~18:00

場所 17-216 人文学研究所

発表者 ① 土屋和代(神奈川大学外国語学部助  
教)

「アメリカの福祉権運動と人種、階級、ジェンダー」

- ② 熊谷謙介(神奈川県立外国語学部助教)  
「世紀末絵画における『デザイン』  
という思想—ゴッホ、ナビ派  
を中心に」  
(山口ヨシ子)

#### 活字文化研究会

本研究会では今年度も日本語学習者の視点から日本語の活字文化に対する意識について調査を継続して行った。具体的には、海外日系人協会の協力のもと南米諸国での日本語継承教育の現場において、また、国際ロータリークラブの協力のもとアジアの日本語教育機関において、それぞれ日本語書籍の提供を通じて、学習者による書籍の活用と学習効果などについて把握を行った。

なお、これらの日本語書籍については、産学連携事業に基づく協力により、ブックオフコーポレーション(株)よりご提供いただいている。

(松本安生)

#### モダリティ研究プロジェクト

##### 活動内容

研究会、ワークショップの開催を通じて、グループの研究テーマ、言語の個別性と普遍性—文と発話の構造」について議論を深めることを目的としている。今年度は特に、「話者」とモダリティ現象の関わりが顕著な日本語の研究・教育の分野で活発な議論ができた。また、過去2年のモダリティと語用論、モダリティと統語論をテーマとした研究成果をまとめた報告書の出版準備中である。

##### 研究会

- (1) 開催日：4月27日(火)  
発表者：文彰鶴 「推量形式に関する日韓対照研究」
- (2) 開催日：12月21日(火)  
発表者：相原昌彦 Richness of CPs and Licensing of Wh-phrases in Japanese  
「モダリティ・プロジェクト ワークショップ 2010」

#### —モダリティ研究と言語教育

- 開催日：7月24日(土)  
会場：神奈川県立横浜キャンパス1号館804  
発表者：砂川有里子(筑波大学)「文法形式に見られる話者の関わり」  
アンドレイ・ベケシュ(リブリアーナ大学)「談話から見た推量的モダリティの呼応：その動機付けと日本語教育への応用の可能性」  
黒沢晶子(山形大学)「『てしまう』のモダリティ性と日本語教育における課題」  
彭国躍(神奈川県立)「推量モダリティの文脈依存性に関する日中対照研究」  
堤 正典(神奈川県立)「ロシア語におけるモダリティとアスペクト—日露対照研究とロシア語教育の観点から—」  
久保野雅史・佐藤裕美(神奈川県立)「英語法助動詞の諸相と英語教育」  
文彰鶴(神奈川県立)「推量形式に関する日韓対照研究—韓国語教育的な観点から—」

#### グローバル化に伴う社会変容と言語政策に関する包括的研究

2010年度は、メンバー各自の研究対象において、調査・分析・研究成果発表を行った。

海外では、中国・台湾・ドイツ・ハンガリーにおいて言語政策ならびに言語教育政策の調査を実施した。国内では、神奈川県内を中心に調査を進め、2010年6月19日に、市民グループ「共生のまちづくりネットワークよこはま」との共催により、シンポジウム『グローバル化する大都市横浜と外国人市民への行政サービス—市内全18区役所を対象とした外国人市民への窓口サービス実態調査から—』を開催した。2011年度は、国内外の調査を継続するとともに、各自の成果報告を重点的に行う予定である。

なお、本研究会の活動は、2009年度より神奈川県立共同研究奨励助成に採択されている。

(富谷玲子)

## 〈身体〉とジェンダー

〈身体〉をめぐる事象をジェンダー・近代性・権力といった軸で考察していく。

本年度は出版にむけての研究会を行った。仮の叢書題名は、『〈悪女〉と〈良女〉をめぐる身体表象』（青弓社で出版予定）となっている。

第1回研究会（2010年7月14日：人文研究所資料室）

報告者：熊谷謙介（外国語学部助教）

「踊る女の両義性：19世紀フランスにおけるサロメの表象を中心に」

第2回研究会（2011年1月12日：人文研究所資料室）

報告者：前島志保（本学講師）

「身体・ジェンダー・エスニシティ：戦間期大衆婦人雑誌に表象された帝国日本の近代性」

（笠間千浪）